

2010 年度 龍谷大学FDフォーラム

テーマ：初年次教育の課題

日時 2010年 **12月22日** (水) 14:00 ~ 17:00

場所 龍谷大学 深草学舎 21号館 4階 402教室

概要 ほとんどの大学で初年次教育の範疇に含まれる教育が行われており、そこで対象とされる学生モデルは、伝統型大学の学生モデルから出発している事が多い。しかし、現代の若者は精神的にも、またインターネットなどの情報環境的にも旧来の若者像とは大きく異なる。そのため、青年期の心理、社会・情報・コミュニケーション環境を踏まえた学生モデルの再構築が必要と考えられる。そこで、それらのことを踏まえた初年次教育のあり方を考える。

スケジュール

14:00 ~ 14:10 開会の挨拶 若原 道昭 龍谷大学学長

14:10 ~ 15:10 基調講演「実践的に見る現代大学生の特徴と初年次教育への接続」

第I部



講演者 **溝上 慎一氏** 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
1970年生まれ。1996年大阪大学大学院人間科学研究科・博士前期課程修了。同年4月京都大学高等教育教授システム開発センター助手。講師を経て、2003年より現職。京都大学博士(教育学)。著書に『大学生の学び・入門-大学での勉強は役に立つ!』(有斐閣アルマ、2006年)、『現代青年期の心理学』(有斐閣選書、2010年)など多数。

15:10 ~ 15:20 質疑応答

15:20 ~ 15:30 休憩

15:30 ~ 16:30 パネルディスカッション

第II部

パネリスト **溝上 慎一氏** (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

谷口 哲也氏 (河合塾教育研究開発本部教育研究部統括チーフ)

テーマ：「初年次教育の事例と特色」

横山 宏氏 (大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科准教授)

テーマ：「『若者とIT』とそれをふまえたICT教育」

須賀 英道 (龍谷大学保健管理センター長)

テーマ：「これからの健康教育」

コーディネーター **中村 博幸氏** (京都文教大学臨床心理学部教授)

司会 **谷 直樹** (龍谷大学経済学部准教授)

16:30 ~ 16:50 質疑応答・まとめ

16:50 ~ 17:00 閉会の挨拶 松本和一郎 龍谷大学大学教育開発センター長

参加
無料



交通アクセス

- 京都市営地下鉄烏丸線、「くいな橋」駅下車、徒歩約10分
- JR奈良線「稲荷」駅下車、徒歩約8分
- 京阪「深草」駅下車、徒歩約3分

※会場は公共交通機関をご利用ください。

参加申込方法

参加ご希望の方は、以下のところまでメールまたはお電話でお申し込み下さい。

申込締切：2010年12月17日(金)

龍谷大学 大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 TEL (075) 645-2163 / FAX (075) 645-2190

E-mail dche@ad.ryukoku.ac.jp URL http://www.ryukoku.ac.jp/fd/

基調講演 講師



溝上 慎一
(みぞかみ しんいち)

講演概要

実践に直接示唆を与える学生調査、解析が求められている。私が重要だと考えてきたのは、①学生を単純に、しかし複雑に見過ぎない4タイプ程度の類型論、②実践に直結する学生データである。前半ではこの観点から、実践的に役立つ、初年次の学生を4年間力強く学ばせるための基礎データを示す。後半では、前半のデータを、青年心理学的に読み解く。もっとも成長感が高い「よく学び、よく遊ぶ」学生は「私とは何者か」を探究するアイデンティティ形成に従事している。そこには、将来の人生や仕事などのキャリアデザインが密接に絡んでいる。正課教育とキャリア

教育が密接に絡まり合わねばならない、と言わざるを得ない瞬間で、大学設置基準改正のキャリアガイダンスにも話が通じる。

略歴

1970年生まれ。1996年大阪大学大学院人間科学研究科・博士前期課程修了。同年4月京都大学高等教育教授システム開発センター助手。講師を経て、2003年より現職。京都大学博士(教育学)。著書に『大学生の学び・入門-大学での勉強は役に立つ!』(有斐閣アルマ、2006年)、『現代青年期の心理学』(有斐閣選書、2010年)など多数。

パネルディスカッション パネリスト



谷口 哲也
(たにぐち てつや)

講演概要

初年次教育では①人間関係の構築としての友人の獲得、②スタディスキルやアカデミックスキルの習得、③思考方法や知の技法の習得が中心課題となっている。マーチン・トロウのいうエリート型、マス型、ユニバーサルアクセス型の時代になぞらえて大学を分類すると、ユニバーサルアクセス型では3つのうちの①に比重が置かれ、マス型では①と②の比重が大きく、エリート型では③の比重が大きくなっていく。河合塾の全国調査からわかった、能動的・自律的な学習への転換という視点での大学の初年次教育の

取り組み事例を紹介したい。

略歴

1961年佐賀県生まれ。1985年九州大学教育学部卒業後、河合塾職員として塾生の進路指導、テキスト・模試編成に従事。1998年より大学情報部門で進学情報誌「Guideline(高校の先生対象)」『栄冠めざして(受験生対象)』の編集や全統模試データ分析など、大学入試情報・大学中身情報の収集・提供などに携わる。全国の大学教職員を対象とした講演や学生募集・大学改革に関するコンサルティング活動にも従事している。



横山 宏
(よこやま ひろし)

講演概要

ゼミ活動にICT技術をうまく活用するには、ポイントがある。まず、ICT技術を使う前に、教員とゼミメンバー同士との人間関係を構築しておくことが不可欠である。その上で、過大な期待を持たずに、目的別にICTを利用することである。例えば、連絡網にケータイメール(メーリングリスト)、資料の授受に共有フォルダ、学生同士のコミュニケーションにツイッター・SNS・電子会議などである。また、個々の技術の操作方法・情報倫理教育については、情報教育センターなどに支援してもらおう体制が望ましい。教員は、何より

も対面でのコミュニケーション力を育成すべきであると考える。

略歴

1956年大阪市生まれ。大阪電気通信大学工学部、大阪府立大学大学院工学研究科、富士通、和歌山コンピュータビジネス専門学校をへて、大阪電気通信大学短期大学部講師。2003年大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科講師、2008年准教授、現在に至る。博士(経営情報学)。「インターネットの光と影」(共著)、「すぐに使える問題解決法入門」(共著)、「やる気の仕事学」(共著)、他。



須賀 英道
(すが ひでみち)

講演概要

初年次教育において今後求められるのは、人として社会生活を送るための人間性の成長である。こころと体の健康教育はその基本であるが、病気予防のための知識の詰め込みや困った時の対応に視点をおくばかりでは、成果は期待できない。学生自身が、元氣と病気のバランスや、ライフスタイル改善、目標設定、コミュニケーション向上をつかむようになっていくことである。教職員サイドにおいても学生の問題点の解決ばかりを求めているは教育にはならない。学生自身のもつ心理特性を尊重し、成長させることが

大切である。入学後の学生生活の中で、自分を磨き、失敗を怖れないチャレンジ精神をもたせ、自己再発見させることが最も重要といえる。こうした教育の場として初年次教育が必要となる。

略歴

- ・1984年 宮崎医科大学 医学部 卒業
- ・2003年 京都大学大学院 医学研究科 脳病態生理学 講師
- ・2007年 日本うつ病学会第2回学会奨励賞
- ・2008年 龍谷大学保健管理センター 教授

コーディネーター



中村 博幸
(なかむら ひろゆき)

略歴

- ・1945年生れ
- ・1968年 静岡大学卒業
- ・1968年～1975年 大阪府立高等学校 数学教諭
- ・1975年～1997年 京都家政短期大学(現 京都文教短期大学)
- ・1997年～ 京都文教大学 新設に伴い移籍
- ・2004年～2006年 京都文教大学 共通教育担当部長
- ・大学教育学会理事
- ・初年次教育学会理事